

# さらに進んだ水づくり（1）



## 北谷浄水場

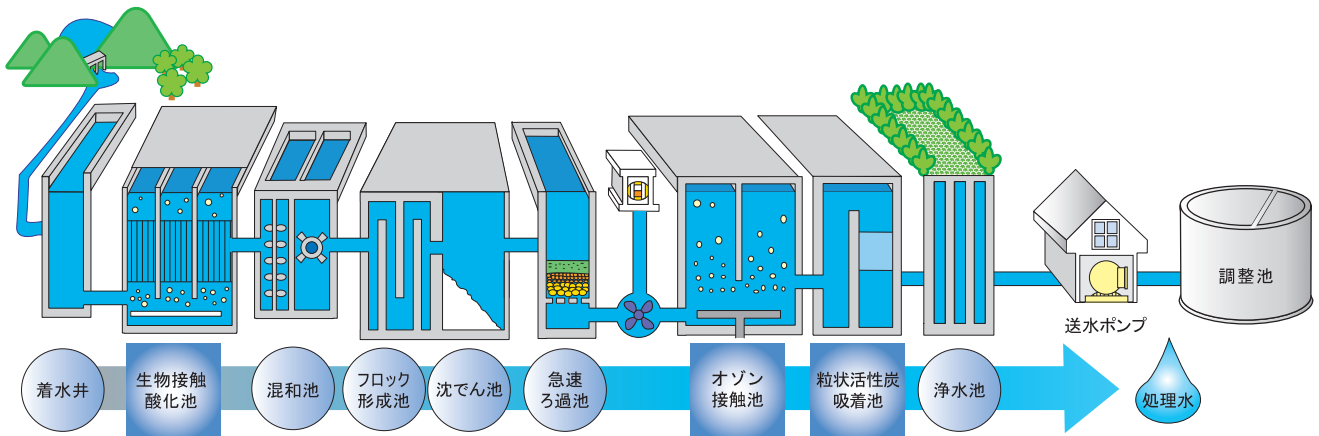
北谷浄水場の水源の一部になっている比謝川や長田川、天願川は、かつて、水質が悪化してきていたため、通常の処理工程では対応が困難となっていました。

そこで、北谷浄水場では、沈でん・ろ過・塩素処理の工程で行われる通常の浄水処理に、河川の自浄作用を浄水処理に応用した生物処理（\*1）、オゾンの酸化作用によりトリハロメタン生成（\*2）の原因となる有機物（トリハロメタン前駆物質）を分解するオゾン処理、活性炭の持つ優れた吸着能力を利用した有機物などを吸着する粒状活性炭処理の3つからなる高度浄水処理を導入し、より安全で安心な水づくりに努めています。

（\*1）平成30年度に生物接触池のプロウを撤去。

（\*2）水道水の原水中には、有機物がごくわずかに含まれています。これに消毒剤として塩素を注入すると、塩素は有機物と反応してトリハロメタンを生成します。

## 高度浄水処理の流れ（北谷浄水場）



## 石川浄水場

石川浄水場では、トリハロメタン低減化対策として、水源水質に適切に対応するため、高度浄水処理を導入しています。

石川浄水場の高度浄水処理は、沈でん・ろ過・塩素処理の工程で行われる通常の浄水処理に加えて、オゾン処理と粒状活性炭処理で、トリハロメタン前駆物質と異臭味（かび臭等）を除去したあと、砂ろ過で濁質等を除去することで、より安全で安心な水の供給が可能となります。

## 高度浄水処理の流れ（石川浄水場）

